

平成27年4月号 消防活動へのとびら1

ページ番号 179922

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

[ツイート](#)

[シェア](#)

2015年4月1日

消防活動へのとびら 1

耐震型防火水槽地上設置型（100m³型）の新設

消防救助課



消防局では、震災消防水利整備計画（平成15年11月策定）に基づき、耐震型防火水槽（以下「防火水槽」という。）（100m³、60m³、40m³）及び防火井戸を整備しています。

防火水槽は、これまで、主に鉄筋コンクリート製の地下埋設型の設置を進めてきましたが、今回、京都市では初となる「地上設置型」を採用し設置しました。

この防火水槽は、周辺に建物が近接しているなど、埋設工事が困難な場所、狭い用地や比較的狭い周辺道路環境にも設置が可能で、工期が従来の防火水槽より短いことが特徴です。

今回設置の防火水槽は、地上設置型の特徴を生かし、地域住民の方及び本市の上下水道局の御理解、御協力を頂き、山科区の小金塚ポンプ所の用地に設置しました。通常の火災はもとより、大震災の発生などで水道消火栓が断水した場合の消火用水として、地域の安心・安全を支えます。

仕様

本体寸法 幅4.5m×奥行4.5m×高さ5.5m

材質 ステンレス製（一般財団法人 日本消防設備安全センター認定防火水槽）

有効容量 100m³

使用方法

外周フェンスの消防隊用出入口から防火水槽に至り、ポンプ車等の吸水管を本体の採水口に接続し、吸水、放水する。（給水可能台数2台）



マンホール

防火水槽の天板に設置されている。
防火水槽への給水は、このマンホールに直接ホースを投入し行う。



はしご

防火水槽天板（マンホール）に登るためのはしご。
使用するためには、統一錠40番が必要。



採水口

ポンプ車等の吸水管を接続後、バルブ（赤）を回して使用する。

平成27年4月号 消防活動へのとびら 2

ページ番号179276

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

 ツイート

 シェア

2015年4月1日

消防活動へのとびら-2



京都市国際消防救助隊訓練の実施

消防救助課



平成27年2月5日、6日の2日間、本部指揮救助隊が京都市国際消防救助隊の訓練を行いました。

国際消防救助隊は、海外で地震等の大規模災害が発生したときに、全国の国際消防救助隊登録消防本部の救助隊員で編成される部隊が、国際緊急援助隊チームの一員として警察、海上保安庁、医療班等と共に被災地に派遣され、救助活動を行います。

本市では本部指揮救助隊から11名を登録しており、過去に4回（台湾、アルジェリア、モロッコ及びニュージーランド）、計10名の隊員を派遣しています。

訓練は、厳冬期の被災国からの要請により派遣したとの想定で、被災地空港において被災国から指示のあった2つの災害現場で時系列に沿った活動を行いました。

訓練内容は、山岳地の集落から要救助者を救出する『山岳耐寒訓練』と、市街地で倒壊した耐火建築物内に複数の要救助者がいる『震災対応訓練』を行いました。

『山岳耐寒訓練』は、京北地域の山岳地で実施。積雪状況の中、スノーシューやカンジキを使用した長時間徒歩訓練、急な斜面での登降訓練、簡易テントの設営訓練のほか、斜面上に倒れている要救助者を救出・搬送する想定で訓練を行いました。

山岳耐寒訓練



また、『震災対応訓練』は、消防活動総合センター内の震災訓練場で実施。夜間で冷たい小雨が降る悪い環境の中で、倒壊建物内に複数の要救助者が取り残されている想定で、要救助者が発する小さな音を拾う「地中音響探知機」や建物の亀裂などの小さな空間から中の状況を確認する「画像探索機」などを用いた搜索訓練のほか、閉鎖空間内の要救助者の観察・救出訓練を行いました。

震災対応訓練



平成23年2月に発生したニュージーランド南島地震災害以降、国際消防緊急援助隊の海外派遣はありませんが、日本国内では、広島県の土砂災害や、御嶽山の噴火災害をはじめ、甚大な被害をもたらした自然災害が発生しています。

このため、今後も引き続き、日本国内外の大規模災害に備えてこのような訓練を実施し、最前線で活動する本部指揮救助隊の技能向上を図っていきます。

平成27年4月号 装備課News!

ページ番号178777

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

 ツイート

 シェア

2015年4月1日



「消防・救急緊急自動車運転技能者課程」の受講

消防局における交通事故防止対策の一環として、安全運転技術の指導者を養成するため茨城県ひたちなか市にある「自動車安全運転センター 安全運転中央研修所」において「消防・救急緊急自動車運転技能者課程」を受講しています。平成18年から毎年3名程度が受講しており、昨年6月には、多年にわたる継続積極的な受講及び職場一体となった交通事故防止活動の推進に努めたことにより、自動車安全運転センターから感謝状を頂きました。

当課程は4日間の研修で、全国の消防本部からも受講されており、消防車・救急車の安全運転に必要な知識や、スラローム、スキッドコントロール、狭あい路走行、バック走行等のほか、緊急走行時に必要な知識と技能について講習が行われます。

研修所は東京ドーム約20個分に当たる広大な敷地内に最新の教育設備を備え、車両点検の方法と必要性(日常点検)を体験により学ぶことから始まり、スキッド走行と呼ばれる横滑りやスリップ体験、路面に雨を降らせた状況を再現した道路環境の違いによるブレーキング操作等の公道では体験できない運転上の危険限界を体験しながら、安全運転の基礎と応用について学ぶことができます。

研修は昼間のみでなく夜間にも実施され、昼間との速度・距離感覚の違い、蒸発現象、歩行者の着衣の色彩による視認性の違いなどについても体験することができます。指導は全国各地から選ばれた現役警察官(全国白バイ安全運転競技大会において上位入賞者等)が行い、実体験を通しての車両特性や危険性についてより深く学ぶことができます。



安全運転中央研修所(全景)

緊急自動車安全運転技能向上訓練

緊急自動車の安全運転技能の向上を図るため、平成26年度機械技術者(3級)認定試験合格者に対し、伏見区羽東師にある「京都府交通安全協会 自動車練習場」において、前述の消防・救急緊急自動車運転技能者課程修了者が指導者となり、延べ3回にわたり訓練を実施しました。

～緊急自動車安全運転技術向上訓練内容～

- 1 車両走行訓練
(スラローム・S字・クランク・狭あい路
模擬街路緊急走行)
- 2 方向変換訓練及び車両誘導訓練
- 3 縦列駐車訓練
- 4 危険回避訓練



自動車練習場は、実際の市街地を模した交差点、踏切、坂道、狭あい路などが配置され、3級機械技術者認定直後の新任運転員に対する緊急走行訓練の場としては最適な施設と言えます。

模擬街路緊急走行訓練においては、赤色灯点灯、サイレン吹鳴して消防車を運転し、交差点付近に模擬の一般車両や歩行者を配置し、見通しの悪い状況での走行時の注意点をイメージしやすい訓練としました。

方向変換及び車両誘導訓練では、特に運転員が死角となる箇所や誘導員から知らせてほしいポイントに視点を置き、これまでの事故事例を教訓とし、今後同様の事故を発生させないように事故発生予測を考えながら思考能力を高める訓練としました。

また、危険回避訓練においては、時速約30キロメートルで走行し、危険を察知して急ブレーキをかけた際、ABS装置の有無により車両にどのような現象が起こり回避できるかを実感し、速度と制動距離を学ぶ訓練としました。

安全運行のための留意事項

車両走行中は思いもよらぬ危険が潜んでいます。特に緊急走行時においては、道路交通法上の優先通行権や特例に基づいた走行を行うことがありますが、特例等に過信することなく、より一層安全に留意し、運行しなければなりません。

運転者は、初めて自動車運転免許を取得したときや機械技術者に認定されたときの気持ちを思い出し、初心に戻り安全運転を励行するとともに、乗組員全員が道路交通法や安全運転に関する要領等を今一度再確認し、交通事故の防止を徹底していただきますようお願いいたします。

平成27年4月号 研究課レポート

ページ番号 179742

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

 ツイート

 シェア

2015年4月1日



今回は、北川式ガス検知管を用いた実験を行いました。

火災原因調査の際、油分(ガソリン、灯油)が現場に存在するかどうかを調べるときに、北川式ガス検知管を用いて調べます。

北川式ガス検知管とは？

ガス採取器とガス検知管から構成されており、検知管の種類により、ガソリンや灯油以外にも、様々な気体の成分を検出することができます。

今回使用する検知管は「鑑識用石油」です。ガソリンを検知したときは、ガス吸引口から順に、黄色及び緑褐色を示します。灯油を検知したときは、ガス吸引口から順に、茶色、淡ピンク及び淡褐色を示し、この色の識別により、ガソリンや灯油の有無を判断します。

<実験 時間経過による揮発性物質の検知の可否>

実験方法

綿100%タオルにガソリン又は灯油を2ml含ませ、1分間燃焼させた後、水で消火。その後、風通しの良い暗所で放置し、1分後、3時間後及び5時間後に北川式ガス検知管で測定を行う。測定方法は、タオルをポリエチレン袋に収去し、中の空気を検知管(「鑑識用石油」を使用。)で吸引する。(写真1)

(写真1)

北川式ガス検知管での測定状況



実験結果

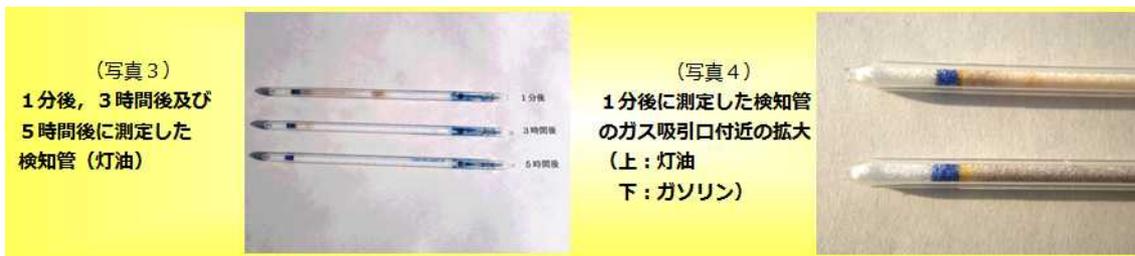
ガソリンは、1分後に測定したものは、ガス吸引口から順に、黄色、緑褐色を示したが、3時間後及び5時間後に測定したものは、検知せず、色調の変化はなかった。(写真2及び4)

なお、3時間後及び5時間後の測定時は、ガソリン臭はしなかった。



灯油は, 1分後に測定したものは, ガス吸引口から順に, 茶色, 淡ピンク及び淡褐色を示したが, 3時間後に測定したものは, 茶色及び淡褐色のみを示し, 淡ピンクは視認できなかった。5時間後に測定したものは, 検知せず, 色調の変化はなかった。(写真3及び4)

なお, 3時間後の測定は若干の灯油臭がしたが, 5時間後の測定時には灯油臭はしなかった。



まとめ

今回の実験から, ガソリンや灯油は時間経過とともに揮発してしまい, 検知できなくなってしまうことが分かりました。

火災現場で油分の存在が疑われる場合, 検知できなくなる前に, 速やかに収去及び測定を行ってください。

※今回の実験結果は, 上記の実験条件においてのもので。油分の量, 燃焼状況及び気温等の条件により結果が異なります。

平成27年4月号 わが社の防火防災自慢

ページ番号179469

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

 ツイート

 シェア

2015年4月1日



わが社の防火防災自慢

地域に根差し、地域に貢献する施設運営を目指して

一般財団法人 京都地域医療学際研究所 介護老人保健施設「がくさい」

事務部 総務課 係長 矢田 圭吾 氏



施設紹介

2005年(平成17年)1月、医療・介護・福祉の知識を結集し、学際的視野に立って高齢者介護に貢献するために、介護老人保健施設「がくさい」は設立されました。

「がくさい」には、利用者の医学的管理を行う“医師”、医師と協力して利用者の医学的管理を行う“看護師”、専門的なりハビリを提供する“理学療法士や作業療法士”、栄養状態の維持・向上のため食事に関する全てをコーディネートする“管理栄養士”、そして利用者の日常的なケアや専門的なケアを行う“介護福祉士”等の多職種がいます。

「がくさい」では、各種の専門職がその専門性を発揮し、全体が一つのチームとなって、介護を必要とする高齢者の自立支援を目指したケアサービスを提供しています。

防火防災対策



消防訓練中



訓練後検討会

1 年2回、北消防署の協力をいただきながら、消防計画に基づき、消火・通報及び避難の総合的な訓練を実施し、防火防災の意識向上を図っています。火災発生時は時間との勝負になりますので、初期消火方法、通報等の情報伝達方法、独歩利用・車椅子利用者・歩行不可能利用者の効率の良い誘導方法に重点を置き、発生時の初期判断・行動が適切であったかの振り返りを行い、次に生かしています。また、地域との連携を図るべく、鷹峯分団及び鷹峯学区自主防災会の皆さまの御指導もいただき実施しています。

2 毎年、心肺蘇生やAEDの取扱いに関する勉強会を行っています。私たちの施設には医師も看護師もおりますが、災害時には全職員が一丸となって救命処置を行う必要があるため、胸骨圧迫や人工呼吸など心肺蘇生法について習得しています。

3 毎年、京都市シェイクアウト訓練に参加し、防災意識を高めています。緊急地震速報受信後の数秒間取るべき対応が生死を分けることを職員が認識し、利用者への声掛けの訓練を行っています。

4 毎年、新入職員を対象に防火・防災教育を実施しています。過去にあった介護施設での火災では、居室内に濃煙が充満して死に至ること、優れた防火設備が整っていても不幸な偶然が重なれば大惨事へとつながることを指導し、防火への意識を高めています。

- 5 毎年、メンバーを変えて北自衛消防隊訓練大会の消火器操法訓練の種目に参加させていただき初期消火活動を習得しています。2012年(平成24年)の訓練大会では優良な事業所として表彰をいただきました。
- 6 秋季全国火災予防運動時に北消防署の担当者を迎えて、在宅の利用者向けの防火意識向上のための講習会を実施いたしました。
- 7 毎年、鷹峯学区総合防災訓練に参加させていただき、要救助者の移送手段として使用していただくため、車椅子の取扱方法について指導させていただいています。地域住民の皆さまに実際に車椅子を操作していただき、使用方法について説明させていただいています。また、この訓練をきっかけに町内単位で開催される防災訓練にもお声を掛けていただき、車椅子の取扱いについて指導させていただくようになりました。
- 8 2012年(平成24年)に京都市と福祉避難所の協定を交わし、福祉避難所運営の取組や備蓄等(3日分)を行っています。



おわりに

高齢化が急速に進む今日では、2025年(平成37年)を目途に、高齢者が住み慣れた地域で人生の最後まで自分らしい暮らしを続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を切れ目なく提供できる地域包括ケアシステムの構築が進められており、これにより介護サービスにとっての地域連携の重要性は更に高まりました。以前より地域に根差した施設運営を図ってまいりましたが、今後とも「がくさい」の役割を介護保険制度上の機能に限定せず社会的資源として資するよう努めてまいります。

平成27年4月号 担当区ぐグット紹介

ページ番号179702

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

 ツイート

 シェア

2015年4月1日



学区紹介

朱八学区は、北は妙心寺通一筋北、南は三条通、東は紙屋川、西は西小路通に囲まれた学区で、中京区の最西端に位置し、北区、右京区と隣接しています。

区内で最大の面積と人口を有している学区で、学区内には、JRと地下鉄の駅、商店街、幼稚園、保育園から大学までの教育施設、総合病院、ノーベル賞受賞者で有名な大規模事業所など、利便性の高い都市型学区です。

また、北野天満宮御旅所では、毎年10月に五穀豊穰を祈る「ずいき祭り」が行われ、大勢の子供たちでにぎわいます。

朱八学区では「子供から高齢者まで、安全で安心のできるまちづくり」を基本方針に各種団体が連携し、独居の高齢者宅への訪問や街頭での子供たちへの見守り運動などに取り組み、人にやさしい、より住みよいまちづくりを進めています。

自主防災会の紹介

朱八地域自主防災会は53の自主防災部で構成されており、約5千5百世帯があります。竹下会長以下約20名の本部役員が中心となり、防災活動に取り組んでいます。本部役員の中には、「防災士」の資格を取得している熱心な役員もいます。

朱八地域自主防災会の特筆すべき特徴は、どんな行事も自主防災会が主体となって実施するところです。

例えば、毎年実施している普通救命講習会では、本部役員が講師となり指導しています。また、総合防災訓練では訓練内容を自分たちで考え実施します。

そのほかにも、年間を通じて、様々な防災行事を行います。これは、「自分たちの町は自分たちで守ろう」という防災意識が本当に自主防災会に根付いている証だと思います。



自主防災会の地域の集会所訓練

消防分団紹介

朱八分団は木村分団長以下23名で、6人の女性分団員を含め、ベテラン分団員から10代の大学生分団員まで様々な世代で構成されていますが、全員が個々の役割を理解し、行動することで、まとまりがあり頼れる分団です。

また、朱八分団は訓練に力を入れており、毎月28日を朱八分団の日と定めて、この日を中心に訓練を実施しています。

最近の訓練内容は主に2つあり、一つは、「わがまちの消防団強化交付金」で導入した訓練用のAEDと救急人形を使用した救急訓練です。

今までは消防署から訓練実施時に救急人形など借用していましたが、現在は、いつでもできるため、分団員全員が熱心に応急手当の訓練に励んでいます。

もう一つは、紙屋川で小型動力ポンプを用いた放水訓練です。

全員が小型動力ポンプの操作や放水活動ができるように、紙屋川にポンプを据え付け、橋の欄干にホースをロープで固定し、分岐管操作や2線放水などを実施しています。

放水訓練の時には、筒先保持姿勢に注意するなど、熱心に訓練に取り組み、災害対応能力の更なる向上を図っています。



おわりに

朱八学区は中京区の他の学区と比べ人口が多く、面積も広い学区です。避難所も5箇所あり、大地震をはじめとする大災害が発生すると多大な影響が予想されるため、自治連合会、自主防災会、消防分団のより強固な連携が不可欠だと考えています。

現在の連携をより深化させ、京都是一安全で安心な防火防災のまちを目指していきます。

平成27年4月号 あの日の頃

ページ番号 179761

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

 ツイート

 シェア

2015年4月1日

あの日の頃

昔は昔, 今は今

西京消防署 荒木 寛人



筆者上段

『学校生活』 (寒い廊下)

昭和56年10月入学で、冬期生と呼ばれていました。教官からは、「諸君は名誉ある第88期生で末広がりで縁起が良い。」と称賛されていました??

当時は、土曜日に帰宅が許され、日曜日の夜に再び学校へ戻る生活でした。何週間が経過した日曜日の夕方、駅で同期生3人と会い、夕食がまだとのことで、寿司屋に入りました。話が盛り上がり、気付けば全員ビールを飲み、乾杯していました。

点呼が始まり、教官から3名呼び出されて大カミナリ。寒く静まりかえった中、終わりのない廊下勤務を命じられました。(自業自得)

制服、私服間違い事件、入浴時の出勤準備、大脱走ラーメン物語、トイレ内文書交換、夜間巡回幽霊事件等、いろいろ思い出が詰まった学校生活でした。

『新配属』 (不安)

運転員教育 (人生非常に厳しい)

事務所には、ベテラン運転員のスペースが有り、そこは新人には近寄りたが場所でした。壁沿いに何か竹刀と木刀が立て掛けてあり、最初は意味が分からなかったのですが、運転等級試験前の運転指導用であることが判明しました。非常に厳しい運転員教育、気合を入れて臨みました。木刀の餌食にならなかったのは、幸いです。(保安帽は、しっかり着用しましょう。)

驚き

運転員になりたてで出勤した際、スリッパのまま出勤しそうになったり、NO赤色回転灯で走行しそうになり隊長から怒られたり、コードリールを引きずったまま帰署しそうになったりと、失敗だらけでした。

一番の驚きは、最先着の製材所火災で直近消火栓に部署し、蓋を開けたら、なぜか水道の蛇口が吐水口にくっ付いていた時です。何が何だか分かりませんでした。蛇口開放で圧が抜けて外すことができました。水道局が漏水防止のため、設置していたそうです。(教えてよ!)

その他、消火栓の蓋が接触するため、スピンドルが外されているとか、開けてびっくりが多々ありました。(よく見て冷静に判断しましょう)

『救助事故1』 恐怖のエレベーター

兵庫県南部地震発生に伴い、京都市内でもエレベーター内の閉じ込め事故が発生しました。

もちろん、エレベーター業者が来ることもなく、現場到着し最上階の機械室に行くと、扉の中からうっすらと白煙が出ている状態であり、警備員に鍵の有無を尋ねると警備室にもないとの回答でした。

情報収集の結果、エレベーターは各階には停止しない構造であり、閉じ込めのカゴは、エレベーターキーの鍵穴がない階であったため、最上階の外扉を開けてそこから懸垂降下して、当該カゴ上から外扉、内扉を開けて救出する方法をとりました。

最上階の手すり部等にアンカーを設定、救助ロープ、確保ロープを使用して降下開始。しかし、周囲を見渡すと後輩が2人。「俺が行かなあかんの?」ということで座席を作成し、外扉を開放し薄暗い未知の世界へ進入していきました。

エレベーターが動き出したらどう脱出しようかなど不安の中、降下していくとエレベーターのカゴをつり合わせるおもりがレールから外れたため、機械室内のモーターがワイヤーを巻き取れず、加熱白煙したのが停止した原因であることが判明しました。

カゴ上では電源を切り、リンクを操作し外・内扉を開放し、カゴ内から無事女性1名を救出することができました。(震度5をみくびるな)

『最後に』

「あの日」から数十年経過し、新しい消防救助資器材が導入され、消火、救出活動も技術向上している今日です。掛け声一つも変わり、「いち、に一、の、さん」から「いちにさん」に。タイミングが違う、力が出ない、これも時代の流れであることを感じます。

消防生活もあと何年と思うか、まだ何年あると思うかにより、残された消防人生も違ってきます。今日一日を大切に、明日も仕事に来るのが楽しい職場づくりを目指し、今日も頑張ります。



筆者
前列右から2人目



筆者
後列右から4人目

平成27年4月号 ザ☆救急

ページ番号 179589

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

[ツイート](#)

[シェア](#)

2015年4月1日



はじめに

ついに私のもとに「ザ・救急」の依頼が来ました。まだ早いと思いきや、同じ隊の自分より若い隊員がすでに投稿したということもあり、引き受けることとなりました。

私は、南、東山、下京の各消防署に配置され消防人生7年になりますが、東山消防署以後4年間は救急隊員として勤務しています。その4年間の救急活動から得た私の大切にしていることをお話します。

心構え

東山消防署では、私の救急人生で一番印象に残っている救急事案がありました。それは、救急隊員となって数箇月後のある心肺停止事案でした。

「家族からの通報で若い女性が室内で倒れているもよう。その他詳細不明」との無線情報で出動し、Y隊長とベテランB士長と共に現場に到着すると、トイレ前で倒れている傷病者がいました。隊長から「梅村！妊娠2箇月で現在心肺停止、胸骨圧迫開始、既往症はくも膜下出血」、あっけにとられた瞬間でした。やることはまず母体を救うこと、そしてそれが胎児を救うことにもつながり、他の心肺停止傷病者の活動と変わらないはずなのに、何かを考え、頭の中が一瞬真っ白になったことを今でも覚えています。

懸命の救命処置と搬送。しかし、結果は2名の尊い命を同時に失いました。病院搬送後、自分たちの活動を思い返しつつ、救急車に戻ると、窓の外にはうなだれ悲壮感を漂わせている旦那さんの姿が目に入りました。これが現実。これが救急。私は本当に大変な仕事をしていることを体全身で感じました。

私たちは現場で活動し、その教訓を基に訓練して次の現場に備えます。私たちは残された家族に何ができるのか、また何をすべきなのかは分かりませんが、家族を亡くされた方の気持ちを大切に思わなければならないのは確かです。

今後も救急現場では心肺停止傷病者と遭遇することは必然です。例えば、その場で死亡していると判断をしなければならぬ傷病者、心肺蘇生処置を行うも助けられない傷病者、社会復帰され以前のような生活に戻られている傷病者。いずれも共通して言えることは生死の間であること、そして一人一人の尊い命と向き合いながら覚悟と使命感を持ってこれからも活動していく必要があるということです。

判断力

今、私が現場活動において一番大切にしていることは判断です。そして、そのために実践していることは根拠のある活動です。

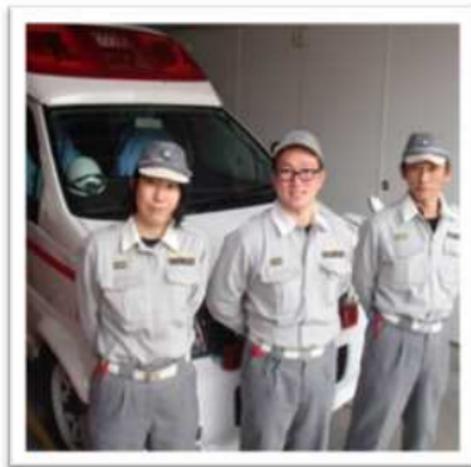
救急救命士制度が平成3年に発足し、現在に至るまでに様々な変革がなされ、特定行為と言われる救命処置も増えてきました。しかし、それを使いこなせなければ意味はなく、臨機応変に活動するためには「判断力」、これが今の救急隊員に求められるものであると私は考えています。

現在、京都市内には30隊×3交替、計90の救急隊があります。決められたルールの下で、隊長や地理状況などにより各救急隊で様々な活動方針が必要となります。各々の条件下で何を根拠に活動し、傷病者にとって常に最良の活動ができるかが大切だと思います。

そのためには、バイタル測定においても、なぜ心電図をとるのか、なぜ頭痛の種類を聴取するのか、なぜ皮膚の色を確認するのか、また搬送を優先するのか、あえて現場に留まって処置を行うのかなどを根拠と判断力を持って活動しなければなりません。傷病者の状態、傷病者の置かれている状況、それに対応できる知識、経験、自らの技量などによって総合的に判断しなければならないのです。

おわりに

この原稿がホームページにアップされるときには、新たな部隊として4月がスタートしています。今までの現場で得た経験、諸先輩方だけでなく後輩からも得た知識、技術が無駄にせず、それを最大限に生かし、傷病者にとってのより良い活動を実践していきたいと思えます。



← 筆者中央



平成27年4月号 表彰

ページ番号179545

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます



2015年4月1日

表 彰

(通知順)

第55回消防研究発表会における業績表彰等

功労表彰

定例業績表彰

永年勤続表彰

平成26年度消防庁長官定例表彰

平成26度全国消防長会永年勤続功労者表彰

平成26年度特別救助（部隊）訓練の結果に基づく業績表彰等

第 5 5 回消防研究発表会における業績表彰等

(3月13日)

1 業績表彰（3作品）

所属	内容	作品名	階級	氏名
中京	論文	家庭用として市販されている散水器具を活用した地域の初期消火能力の向上について	消防司令	高野 正人
			消防司令補	谷口 靖
			消防士長	石谷 亮太
			消防士長	松本 政治
			消防士	兼田 良寛
下京	機器	小型動力ポンプ用台車の補助輪について	消防司令補	松川 智則
			消防士	粟谷 勇太
南	機器	オイルパンの改良及び新素材の考案について	消防司令	小林 知之
			消防司令補	堀尾 泰寛
			消防士長	山本 雅史
			消防士長	源 隆一郎
			消防士	新野 祐人

2 局長賞辞（8作品）

所属	内容	作品名	階級	氏名
北	機器	様々な状況下においても崩れにくいホースバックについて	消防士	竹島 竜太郎
			消防士	福谷 大志
			消防士	戸守 健人
東山	論文	東山区内の救急件数の減少に関する考察について	消防司令補	梅村 明宏
			消防士長	馬場 智子
			消防士長	熊給 裕紀
			消防士長	飛田 剛志
右京	論文	マスキングシートを活用した水損防止活動について	消防司令補	津田 壮一
			消防士長	喜多 康浩
			消防士長	梶田 秀憲
			消防士	楢 誠介
			消防士	岩崎 暁裕
右京	論文	火災調査チェックシートの作成について	消防司令	中井 康至
			消防司令補	磯見 猛
			消防司令補	北島 剛
			消防士長	北出 陽一
			消防士長	中田 恵吾
			消防士長	下川 翔二
			消防士長	星野 雄亮
			消防士長	寺田 大悟
西京	論文	運転員の無線中継技術向上のための一考察	消防司令	河村 純
			消防士長	中井 和也
			消防士長	塩見 航平（現 東山）
			消防士	南 雄大

西京	論文	狭所巻きホースの作成と延長方法の一考察について	消防司令補	吉村 昌和
			消防士長	山内 紳平
			消防士長	原 良徳
			消防士	塩崎 貴哉
			消防士	早田 将平
醍醐	論文	病院前脳卒中スケール（醍醐脳卒中スケール・DPSS）による脳卒中判別に関する研究について	消防司令	山岡 辰朗
			消防司令補	野々村 淳（現 山科）
			消防司令補	橋本 雅徳
			消防士長	赤壁 浩一
			消防士長	高橋 哲也
醍醐	機器	面体の取り付け位置及び取り付け方法の改良について	消防士	伊藤 香平
			消防司令	八田 正人
			消防司令補	谷口 和徳
			消防士長	中西 雅人
			消防士長	内田 光（現 南）
			消防士長	石田 真之
			消防士	土岸 真哉

功労表彰

(2月19日)

表彰対象者

下京消防署

京都市消防司令補 太田 義雄

表彰の種類

京都市消防職員表彰規則第2条第1号

表彰理由

太田消防司令補は平成19年9月24日下京区内で発生した民家火災において、下京第5消防隊の隊員として出動し、著しい危険が予測される状況にもかかわらず、一身の危険を顧みず活動し、災害現場活動中に負傷し、長きにわたる療養の甲斐なく、平成27年2月19日に殉職したものの。

定例業績表彰（36名）

（3月13日）

北	消	防	署	消	防	司	令	補	米	田	貴	志
北	消	防	署	消	防	司	令	補	伊	藤	陽	之
北	消	防	署	消	防	司	令	補	薦	田	佳	秀
上	京	消	防	署	消	防	司	令	牧	草	立	馬
上	京	消	防	署	消	防	士	長	北	岡	二	朗
上	京	消	防	署	消	防	士	長	藤	田	隼	也
左	京	消	防	署	消	防	司	令	佐	々	木	康
左	京	消	防	署	消	防	司	令	倉	部	惠	裕
左	京	消	防	署	消	防	司	令	畦	崎	晃	一
左	京	消	防	署	消	防	司	令	倉	貫	高	義
左	京	消	防	署	消	防	士	長	坂	口		昌
中	京	消	防	署	消	防	司	令	久	世	恭	実
中	京	消	防	署	消	防	司	令	大	八	木	志
中	京	消	防	署	消	防	司	令	岸	本	紀	博
東	山	消	防	署	消	防	司	令	中	井	教	子
東	山	消	防	署	消	防	司	令	堀	江	雅	雄
東	山	消	防	署	消	防	士	長	清	水	信	嗣
東	山	消	防	署	消	防	司	令	北	村	順	滋
山	科	消	防	署	消	防	司	令	澤	井	誠	一
山	科	消	防	署	消	防	司	令	角	川	佑	信
下	京	消	防	署	消	防	士	長	大	谷	將	介
下	京	消	防	署	消	防	士	長	片	岡	洋	夫
南	消	防	署	消	防	司	令	補	小	川		子
南	消	防	署	消	防	司	令	補	山	口	咲	聰
南	消	防	署	消	防	司	令	補	堀	尾	泰	子
右	京	消	防	署	消	防	司	令	小	倉	正	寛
右	京	消	防	署	消	防	司	令	河	内	伸	典
右	京	消	防	署	消	防	司	令	中	澤	一	介
西	京	消	防	署	消	防	司	令	吉	岡	正	彦
西	京	消	防	署	消	防	司	令	木	村	清	史
西	京	消	防	署	消	防	士	長	中	井	和	一
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	織	田	昌	也
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	西	尾	康	延
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	中	川	正	廣
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	鍋	山	益	宗
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	小	島	将	二
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	小	島	将	規

永年勤続表彰（110名）

（3月13日）

勤続40年（24名）

警防部装備課
 消防学校教養課
 消防学校教養課
 北消防署
 上京消防署
 上京消防署
 上京消防署
 左京消防署
 左京消防署
 中京消防署
 中京消防署
 山科消防署
 山科消防署
 南消防署
 南消防署
 右京消防署
 右京消防署
 右京消防署
 西京消防署
 西京消防署
 伏見消防署
 伏見消防署
 伏見消防署醍醐消防分署
 伏見消防署醍醐消防分署

消防司令
 消防司令長
 消防司令
 消防副士長
 消防司令補
 消防士長
 消防副士長
 消防司令補
 消防士長
 消防司令長
 消防士長
 消防士長
 消防副士長
 消防士長
 消防士長
 消防司令長
 消防士長
 消防士長
 消防士長
 消防士長
 消防士長
 消防司令長
 消防士長

竹山春之
 長谷川藤昭
 杜若一郎
 奥田育三
 重命良宏
 宮内幸義
 杉野章
 吉村耕夫
 中昇
 南部雄二
 西脇登
 駒井義次
 田中康博
 山田実
 四方廣詞
 菅原隆三
 大西芳彦
 主原良一
 三觜修二
 山口裕
 川越祐司
 北川敏宏
 中森睦弘
 横山昌弘

勤続30年(52名)

右	京	消	防	署	消	防	士	長	北	出	陽	一
西	京	消	防	署	消	防	司	令	上	村	雅	也
西	京	消	防	署	消	防	司	令	小	林		傳
西	京	消	防	署	消	防	副	士	小	原	健	男
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	坂	田	和	博
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	石	田	正	人
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	山	本		昇
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	有	蘭	真	一
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	南			郎
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	村	井	則	夫
伏	見	消	防	署	消	防	司	令	西	尾	康	廣
伏	見	消	防	署	消	防	士	長	中	村	達	也

勤続20年(34名)

総務部庶務課
 総務部施設課
 総務部人事課
 予防部
 警防部消防救助課
 警防部調査課
 消防学校教養課
 北消防署
 上京消防署
 上京消防署
 左京消防署
 左京消防署
 中京消防署
 中京消防署
 山科消防署
 山科消防署
 山科消防署
 山下京消防署
 南消防署
 南消防署
 南消防署
 右京消防署
 右京消防署
 右京消防署
 西京消防署
 西京消防署
 伏見消防署
 伏見消防署
 伏見消防署
 伏見消防署
 伏見消防署醍醐消防分署
 伏見消防署醍醐消防分署

消防職員
 消防司令補
 消防司令
 消防司令
 消防司令
 消防司令
 消防司令補
 消防司令
 消防司令補
 消防士長
 消防士長
 消防職員
 消防司令補
 消防司令補
 消防司令補
 消防司令補
 消防士長
 消防司令補
 消防司令
 消防司令
 消防司令補
 消防司令補
 消防司令補
 消防副士長
 消防司令補
 消防士長
 消防士長
 消防職員
 消防司令
 消防司令補

平井まゆみ
 西村晃一
 松田真治
 弓木重雄
 高橋雅樹
 福田政和
 佐々木祐子
 木林久仁之
 高木裕幸
 熊代健志
 林晋一
 辻本由美子
 西村友喜
 長谷川浩史
 西村稔彦
 三上敏一
 安田雄一
 倉田純一
 福山圭実子
 林万規一
 倉貫真聡
 小川也寸志
 瀬古美和
 山本哉生
 川戸正人
 山田邊理加子
 渡邊朱子
 山内豊志
 阿部健治
 山元宅栄子
 南藤夕起子
 加藤泰久
 西村之内大輔

平成26年度消防庁長官定例表彰受章者

(3月6日)

【功 勞 章】	京都市消防局	消防正監	下遠 秀樹
	安全救急部	消防正監	山村 忠樹
【永年勤続功労章】	総務部人事課	消防司令長	井上 元次
	予防部	消防司令長	伊藤 芳隆
	安全救急部市民安全課	消防司令長	町田 善軌
	安全救急部救急課	消防司令長	山田 俊哉
	安全救急部情報通信課	消防司令長	服部 和行
	警防部警防計画課	消防司令長	森 雅彦
	警防部消防救助課	消防司令長	西本 弘幸
	警防部指令課	消防司令長	吉田 豊
	警防部指令課	消防司令長	長谷川 一隆
	消防学校研究課	消防司令長	松村 貴史
	上京消防署	消防司令長	伊勢 和夫
	山科消防署	消防司令長	福田 孝治
	下京消防署	消防司令長	吉川 泰二
	西京消防署	消防司令長	宮下 聡

平成26年度特別救助（部隊）訓練の結果に基づく業績表彰等受賞部隊

(3月13日)

業績表彰（優秀部隊）

所属	階級	氏名
左京消防署警防課第三部岡崎特別救助隊	消防司令	梶 満
	消防司令補	竹島 直基
	消防士長	松田 憲司朗
	消防士長	鳥居 竜也
	消防士長	藤本 龍平

局長賞辞（優良部隊）

所属	階級	氏名
左京消防署警防課第二部岡崎特別救助隊	消防司令補	倉部 恵一
	消防士長	細 拓馬
	消防士長	鎌近 真行
	消防士長	廣澤 基喜
	消防士	中島 翔
西京消防署警防課第二部松尾特別救助隊	消防司令	尾本 幸伸
	消防司令補	東山 誠
	消防士長	和高 諭
	消防士長	川妻 郁智
	消防士	藤崎 亮太

平成27年4月号 Web版移行特別企画記事

ページ番号178257

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます [Twitter](#) [シェア](#) 2015年4月1日

消防機関誌 発行都市
限定 特別企画

消防防火衣 紹介

編集部

東京消防庁 千葉市消防局 川崎市消防局 名古屋市消防局 大阪市消防局 神戸市消防局 京都市消防局



機関誌
「東京消防」



機関誌
「躍進」



機関誌
「ファイヤー
かわさき」



機関誌
「東海望楼」



機関誌
「大阪消防」



機関誌
「雪」



Web
「京都消防」

消防機関誌を発行している7都市合同で、防火衣を紹介しようという企画で、様々な防火衣の写真が集まりましたので紹介します。

写真を見ていると、様々な形や色の防火衣がありますが、その性能規格は国際的な基準としてISO(国際標準化機構)のISO11613(1999年12月15日成立)により示されています。ISO基準には、燃焼性、熱伝達、耐熱性、引張・引裂強度、撥水度など19項目に及ぶ防護性能が定められていますが、活動性を重視した「欧州基準」と、素肌の上に着用しても隊員を守れる「米国基準」の2つの基準があり、どちらかを選択できるものとなっています。当局では、活動性などを考慮した結果、「欧州基準」を最低基準として設定しています。

また、日本ではこの国際基準の規格を踏まえて、消防庁が「消防隊員用個人防火装備に係るガイドライン」を作成し、各消防本部がこのガイドラインの安全基準に基づいた防火衣を運用しています。

各消防本部の防火衣を見ますと、耐火・耐熱性に加え、快適性、活動性も両立させるため、基準の下で様々な工夫が凝らされています。

京都市消防局



東京消防庁



千葉市消防局



川崎市消防局



名古屋市消防局



大阪市消防局



神戸市消防局



平成 27 年度消防防災科学技術賞

応募要領

消防庁消防研究センター

1. 趣旨

消防防災機器等の優れた開発・改良を行った者、消防防災科学に関する優れた論文を著した者及び原因調査に関する優れた事例報告を著した者を消防庁長官が表彰することにより、消防防災科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として実施するものです。

2. 主催

消防庁

3. 応募方法

3.1 応募者の区分

応募者の区分は次のとおりとします。

(1) 消防職員・消防団員の部

消防職員、消防団員の個人又は団体

(都道府県消防防災主管課、都道府県消防学校等、消防防災に係わる公共機関の職員を含む。)

(2) 一般の部

(1) 以外の個人又は団体

消防職員・団員とそれ以外の者とは共同で応募する場合は、主たる応募者の所属によるものとします。

3.2 募集区分

作品の募集区分はそれぞれ次のとおりとします。

(1) 消防職員・消防団員の部の募集区分

① 消防防災機器等の開発・改良

消防防災活動において活用するために創意工夫された機器等を開発又は改良したもの。

② 消防防災科学に関する論文

消防防災活動における問題点を技術的な観点から解決又は考察したもの。

③ 原因調査に関する事例報告

消防機関において実施された原因調査で、消防防災科学技術の観点から解決又は考察したもの。

(2) 一般の部の募集区分

① 消防防災機器等の開発・改良

消防防災活動において活用するために創意工夫された機器等を開発又は改良したもの。

② 消防防災科学に関する論文

消防防災活動における問題点を技術的な観点から解決又は考察したもの。

3.3 応募方法

応募書類は、別紙「応募書類作成要領」に則って、日本語で作成してください。

応募書類は、紙媒体を正本、その書類の電子データを含む CD 等（USB メモリ不可）を副本とし、その両方を送付してください（一個人又は一機関が複数の作品を送付する場合は、それらの作品を一枚の CD 等にまとめても結構です。）。

電子データは Microsoft Word など、編集可能な形式で送付してください（PDF 形式は不可）。

応募書類以外の資料（カタログ、動画等）は送付されても審査の対象とはなりません。なお、受領した応募作品は返却しません。

〈送付先〉

〒182-8508 東京都調布市深大寺東町 4 丁目 35 番 3 号
消防庁消防研究センター 研究企画室

3.4 応募受付期間

平成 27 年 4 月 1 日（水）～5 月 8 日（金）

（平成 27 年 5 月 8 日の消印有効とします。）

3.5 応募にあたっての注意事項等

(1) 共通事項

- ・過去に本表彰事業に応募されたものと同一の作品は対象外とします。
- ・**一次審査を通過した応募作品は、受賞候補作品として、作品名、所属、氏名、作品概要が消防庁のホームページ上で公開されます。**また、最終選考の結果、受賞が決定した作品は、全文が冊子にまとめられるとともに一般に公開されます。作品内の個人情報等の取扱いには十分注意してください。なお、これら公開にあたり、改めての意思確認は行いません。
- ・必要に応じて、所属組織内で事前の了解を取ることをお勧めします。

(2) 「原因調査に関する事例報告」の場合

- ・係争中の事例ではないこと。
- ・応募者の区分が「消防職員・消防団員の部」に該当しない方は、「原因調査に関する事例報告」の募集区分には応募できません。

4. 審査及び評価のポイント

4.1 審査

- ・審査は紙媒体で提出された作品に基づき行われます。
- ・審査は、有識者で構成される選考委員会によって行われます。
- ・審査は、応募者の氏名・所属等を伏せずに行われます。
- ・7 月頃に、審査過程にある受賞候補作品を消防庁のホームページ上で公開します。
- ・過去の表彰作品一覧は、こちらからご覧いただけます。

(URL) http://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html

4.2 評価のポイント

応募作品の審査にあたっては、消防活動に関わる現場の視点を重視します。

また、それぞれの募集区分における評価のポイントは次のとおりです。

(1) 「消防防災機器等の開発・改良」の場合

技術的な創意・工夫を有するもの、安全性が担保されているもの、普及を推奨できるもので、今後の消防防災活動において活用が見込まれるもの。

(2) 「消防防災科学に関する論文」の場合

技術的な創意・工夫を有するもの、先見性を有するもの、適切な検証がなされているもので、今後の消防防災の分野において応用・発展が見込まれるもの。

(3) 「原因調査に関する事例報告」の場合

技術的な創意・工夫を有するもので、今後の原因調査業務の高度化、予防対策又は警防対策への寄与が期待できるもの。

5. 表彰について

5.1 受賞者の決定

受賞者は、9月頃に決定され、公表される予定です。なお、応募者には結果を通知します。

5.2 表彰の件数

表彰の件数は次のとおりです。

優秀賞

消防職員・消防団員の部における消防防災機器等の開発・改良	5件以内
消防職員・消防団員の部における消防防災科学に関する論文	5件以内
消防職員・消防団員の部における原因調査に関する事例報告	10件以内
一般の部における消防防災機器等の開発・改良	5件以内
一般の部における消防防災科学に関する論文	5件以内

奨励賞

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学に関する論文及び原因調査に関する事例報告
3件以内

5.3 表彰式について

受賞者には、表彰式にて消防庁長官より表彰状及び副賞が授与されます。

5.4 受賞作品の講演、掲載等

- ・受賞作品については、第63回全国消防技術者会議（11月下旬開催）において、受賞者から発表していただく予定です（口頭発表又は展示発表）。
- ・受賞者、受賞作品（本文、図表及び写真）を消防庁及び消防研究センターの広報媒体等に掲載します。掲載にあたり、改めての意思確認は行いません。

6. 個人情報の取扱いについて

応募書類に含まれる個人情報については、作品の審査、表彰作品の発表及び事務局からの連絡業務においてのみ利用し、応募者本人の同意がある場合を除き、主催者以外の第三者に提供・開示することはありません。

7. 問合せ先

その他、ご不明な点がございましたら、下記の間合せ先までお問い合わせ下さい。

消防庁消防研究センター 研究企画室

〒182-8508 東京都調布市深大寺東町4丁目35番3号

電話 0422-44-8331(代表) FAX 0422-44-8440

メールアドレス hyosho2015@fri.go.jp

消防研究センターホームページ <http://nrifd.fdma.go.jp/>

平成27年度 消防防災科学技術賞

作品募集

応募要領

◆募集区分

【消防職員・消防団員等による応募】

- (1) 消防防災機器等の開発・改良
 - (2) 消防防災科学に関する論文
 - (3) 原因調査に関する事例報告
- 【一般による応募】
- (1) 消防防災機器等の開発・改良
 - (2) 消防防災科学に関する論文

◆応募受付期間 平成27年4月1日（水）～ 5月8日（金）

◆表彰 優秀な作品には消防庁長官から表彰状及び副賞が授与されます。

※ 一次審査を通過した作品はホームページにて紹介します。

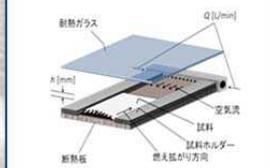
表彰作品の公表は9月頃の予定です。

詳細は消防研究センターホームページをご覧ください。

平成26年度 表彰作品 (一部)



防火帽用防爆型
LED ライトの開発



可燃性固体の
燻焼試験法に関する研究



ペットボトルを利用した
訓練用人形の開発



車両の前照灯（ハロゲンバルブ）
の取り付け不良による出火事例



救急車の視認性を高めるための
反射材の使用についての考察



多機能型乳幼児救助用
担架兼用締帯の開発



消防用ホース固定金具の開発

お問い合わせ先

消防庁 消防研究センター 研究企画室

TEL:0422-44-8331 FAX:0422-44-8440 E-mail:hyosho2015@fri.go.jp

消防研究センターホームページ <http://nrifd.fdma.go.jp/>